八雲町 × 上智大学

まちづくり
ワークショップ

八雲の魅力と、これからの関わり方を考える

第3期八雲町総合計画の策定に向けた意見交換

2026. 9. 12（土）10:30～12:00



本日のプログラム

10:30 **情報提供（10分）**
総合計画とは／今日考えていただきたい2つのテーマ

10:40 **グループでディスカッション（60分）**
①八雲町の「魅力」と町外の人に「伝えたい」ことは？
②もったいない、改善できそうと感じたものは？
③自分自身が八雲町と関わるなら？

11:40 **発表（10分）**
発表は学生の皆さんから



11:50 **振り返り・まとめ（５分）**

12:00 **閉会**

今日の目的

3日間の視察で感じた「外からの目線」を、第3期総合計画のヒントにします。

1

見つける

八雲の魅力
「もっと伝えたい」

産業・食・自然・人・場所

2

考える

もったいないところ
「もっと活かせそう」

知られていない
つながっていない

3

つなげる

これからの関わり方
「自分たちなら？」

大学生世代だからできる
ことも含めて

「町外に住む若い世代」である学生の皆さんの視点

・外から見た八雲町の魅力
・若い世代が「暮らしたい・関わりたい」と思うまちの姿

正解を出す場ではありません。率直な気づきや「自分たちだったら」を聞かせてください。

総合計画とは、まちづくりの「設計図」です

町の将来像や目標を定め、その実現に向けた取組をまとめた計画。道路・公園・学校・医療・福祉・産業振興などの基本になります。
今日いただいた意見は、第3期総合計画の検討材料として整理・活用します。

現行
第２期八雲町総合計画
平成30年度～令和9年度（10年間）
来年度が最終年度

▶

これから
第３期八雲町総合計画
令和8・9年度の2か年かけて策定
令和10（2029）年度からの10年間の計画

なぜ総合計画が必要なの？

すべての課題に同時には
取り組むことができない…

「どんなまちを目指すのか」
「限られた予算や人材を何に使うのか」
を町民みんなで考え、優先順位を決める

なぜ皆さんの意見が必要なの？

10年後の地域を支えていく
若い世代の皆さんの意見が大切

町外に住む皆さんだからこそ分かる
「外から見た八雲町の魅力」
「若者が暮らしたいまちの姿」

２つの分野について意見を出してもらいます

第3期総合計画では5つの目標を設定予定。今回はそのうち2つに絞ってご意見をいただきます。

（1）産業・雇用

「八雲ならでは」を仕事や価値につなげるには？

農業・漁業・酪農・水産加工・商業・観光など

- 八雲ならではの産業・商品・食・仕事の魅力
- 町外の人に十分伝わっていない地域資源
- 若い世代が働きたい・関わりたい仕事や環境
- 地域資源を新たな商品・サービス・交流に
- 町内の産業と大学生・都市部の企業等の連携

（2）交流・連携・協働

町外の若者が「また関わる」には？

町民同士・地域間・世代間・町内外のつながり

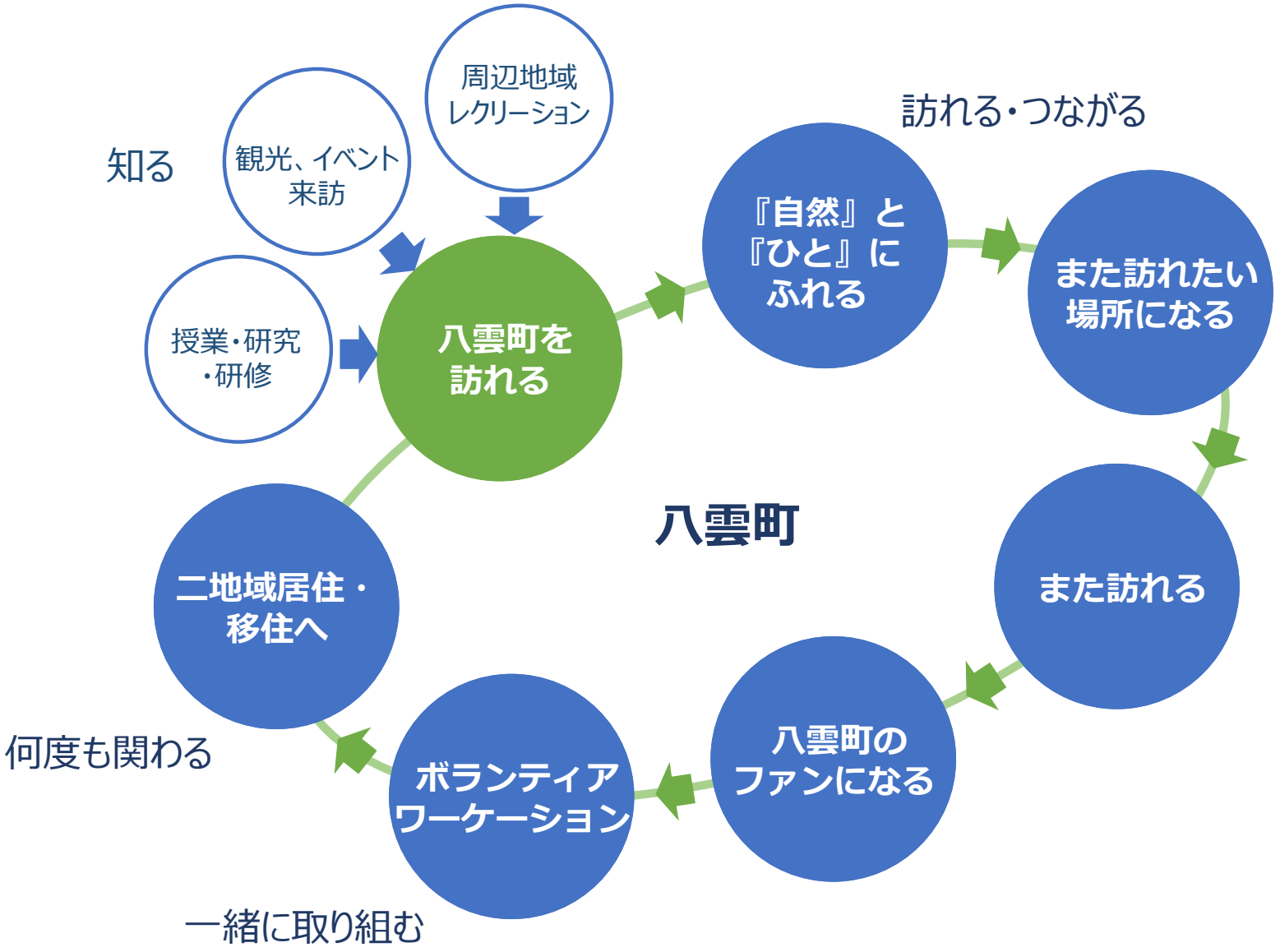
- 町民と来訪者・若い世代が交流できる場や機会
- 大学生が継続的に八雲町と関われそうな取組
- 関わり続けるために必要な仕組み
- 八雲・落部、熊石の2地域が連携して生まれる取組

八雲町の強み 北海道近代酪農発祥の地 ／ 二つの海を持つ全国でも珍しい地理条件

高品質な農畜産物・水産物 ／ 豊かな自然環境

今日のポイント

自分たちなら、八雲とどんな関わり方ができるだろう？



発想のヒント

ほかの地域では、
こんな「関わり方」も

「八雲なら？」と考えるための参考です

産業・雇用

地域の“あるもの”を仕事に

うきはの宝株式会社（福岡県うきは市）

高齢女性の知恵や技を地域資源として活かす「ばあちゃんビジネス」



ばあちゃん食堂



地域の食材を使った弁当・加工品

- 75歳以上のおばあちゃんが働く会社。生きがいの創出と、年金プラスの収入に
- 地域にある知恵・食・技を、新しい仕事や役割につなげている

産業・雇用

まち歩き観光・サッポロコンシェルジュ

一般社団法人サッポロコンシェルジュ（北海道札幌市）

札幌のまちを楽しくするひと・コンテンツ・しくみ

８つのエリアのまち歩きコースとガイドの育成



観光事業者が進める札幌の魅力とまち歩きコースづくり



ガイド付きのまち歩きツアー

- 札幌駅前、大通、すすきの、円山、西11丁目界隈など、札幌市内主要エリアの資源を掘り起こし
- 観光資源同士をストーリー性をもってつなぐまち歩きコースを造成。ガイドがついてまち歩きを楽しむ

産業・雇用

空き店舗を仕事・交流の場に

まちなかコワーキングスペース NASCITA（北海道網走市）

商店街の空き店舗を活用し、市民が集まって働ける場を整備（2022年10月オープン）



空き店舗（活用前）


働ける場として整備


人が集まり交流が生まれる

- 「働く場」と「集まる場」を兼ねることで、日常的に人が行き交う拠点になる
- まちなかの遊休施設が、仕事・交流・情報発信の入口として使われている

交流・連携・協働

図書館カフェ プロジェクト

町内の若い世代が主体で実践するまちづくり活動（北海道清水町）

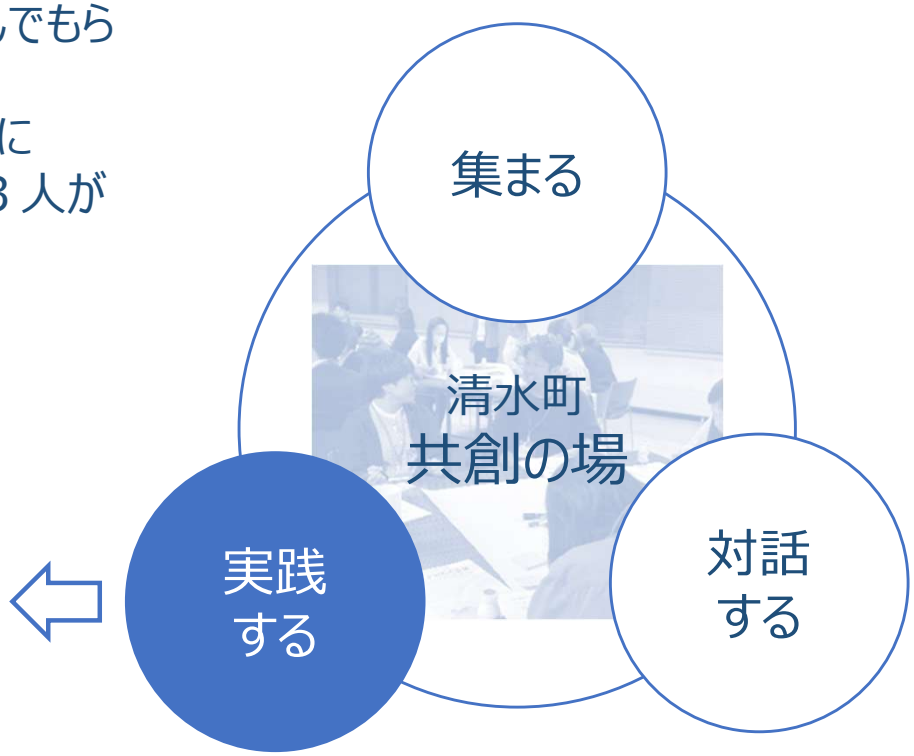
町民のアイディア→町民主体で実践されたプロジェクト



- 図書館をもっと楽しんでもらいたい
- 図書館をマンガ喫茶に
- 高校生を含む町民３人が中心に実践







交流・連携・協働

若者が” 外から関わり続ける”仕組みをつくる

高校魅力化プロジェクト（島根県海士町）

「高校を守ること＝島の未来をつくること」と捉え、高校を軸に地域再生



地域と協働した探究学習・課題解決型授業（PBL）



島の行事に高校生が参加

- 「島留学」制度を整え、都市部からの中学生が進学しやすい環境（寮・支援体制）を構築
- 島民がサポーターとしてバックアップ。外から来た若者が地域の担い手になる

意見交換

これからの八雲を
一緒に考えよう！

（1）八雲町の「魅力」と町外の人に「伝えたい」ことは？

（2）もったいない、改善できそうと感じたもの

（3）自分たちが八雲町と関わるなら？



３つのテーマ

視察で見た場所・人・産業・体験を思い出しながら、具体的に話してみましょう。

1
見つける

八雲で魅力を感じたもの、
町外の人にもっと伝えたいものは？

産業・食・自然・人・場所
「これは知られていない」
と思ったもの

2
考える

もったいない、もっと活かせそうと
感じたことは？

知られていない
つながっていない
使われていない

3
つなげる

自分が八雲と関わるとすれば、
やってみたいことは？

また来る／一緒にやる
若い世代だからできることも
含めて

話し合いの進め方

① 付箋にご自身の意見を短く書きましょう

八雲は海だけでなく酪農もあるところがすき

若者がいるまち・戻ってきたい・憧れるまちにしたい

はぴあで○○○を一緒にやっていきたい！

１枚に１つの意見を記入

②一人ずつ順番に発表します（模造紙に貼りつけ）

③グループ内で意見交換を進めていきます

発表は学生さんからお願いします

模造紙のイメージ

八雲町の魅力

二つの海

海産物・乳製品

新幹線

もっと活かせそうなこと

一次産業が元気
チャレンジの場と機会

酪農、漁業を
活かした観光

まちぐるみで情報発信

風力発電、
ワインを活かす

たくさんの移住者
若者が戻ってくるまち

若い世代が八雲町と関わるなら

アクティブシニアと活躍
1人二役、高校生も活躍

SNSでプロモーション

空き家を活用

農業・漁業のインターン

若い世代が参加できる
コミュニティの場

グループでの話し合いのルール

①お一人で長く発言しすぎないようにしましょう

②人の意見・アイディアを否定しないようにしましょう

③アイディアは質より量、たくさん出してみましょう